

1 授業日時 令和8年7月16日(木) 第1時13:30~14:15 第2時14:20~15:05(残り時間は各教室で調整)

2 参加者 中学生: 釧路市立春採中学校(2学級68名), 釧路市立山花小中学校(1学級3名), 洞爺湖町立洞爺中学校(1学級11名), 安芸高田市立甲田中学校(1学級40名) 徳之島町立手々中学校(1学級2名)・・・合計5校124名
ゲスト: 釧路市マーケティング戦略室(中継)
全体進行: 北海道教育大学釧路校・講師 玉井 慎也(@春採中)

3 学年・単元名 中3(公民)「私たちがつくるこれからの未来ー「じゃんけん」や「くじ引き」は公平か?ー」
※「中学校学習指導要領解説 社会編」pp.138-141, pp.176-179と対応

4 授業前の準備

- ・【任意】学校や学級にある「ルール」をリストアップし、なぜそのルールがあるのか議論してみましょう(対立と合意)。
- ・【任意】学校や学級にある「ルールづくり」や「ルール変更」の難しさを議論してみましょう(効率と公正)。
- ・【必須】7/15(水)までに事前アンケート(<https://forms.gle/JEXhBsKmZEBgzxhf9>)に回答させてください。

5 本時(第1時)

目標: 身近な学校生活で経験してきた物事を決める方法について学校間で意見交換し、「対立と合意」「効率と公正」という「現代社会の見方・考え方」を習得できる。【思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度】

学習活動	予想される生徒の反応(例)	指導上の留意点
<時間調整>13:30までに余裕がある場合 0. 導入部の発表練習 (私たちの学校・学級では、物事を決める場面として、○○。○○, ○○があります。物事を決める方法としては、□□, □□, □□があります。)	・学校行事, 給食, 授業中・・・場面はいろいろあるね ・「話し合い」といっても, いろいろあるよね	・教科書とタブレットを準備(アンケートリンク確認!) ・13:25までに着席確認 ・13:25~OP動画開始
<導入>13:30~13:55 1. 学校ではどんな物事をどう決めている?(10) (1) 物事を決める場面, 3つリストアップしよう ※そのうち1つは自分の学校・学級に特殊なものを考えてみよう (2) 物事を決める方法, 3つに対応させてみよう (3) 発表・意見交換しよう ※各学級3名の代表が1つずつ発表 【春採3-1→3-2→山花→洞爺→甲田→手々】 ※「対立」と「合意」を視점에概念化	・【場面】席替え→【方法】くじ引き+譲り合い 【場面】給食おかわり→【方法】じゃんけん 【場面】生徒会長選挙→【方法】立候補→投票 【場面】合唱祭曲決め →【方法】話し合い+最後は多数決 【場面】授業中の発言者→【方法】先生が指名 【場面】修学旅行の班での自主研修場所 →【方法】全会一致 ・決め方によっては, 争いや不満が起きる(悪化する) ・決め方によっては, みんなが納得する(妥協する)	・春採中3-1スポットライト→参加校スポットライト追加 ・場面は教師から例示してもOK, 方法は生徒に考えさせたい ・代表生徒の発表支援 ・板書:「対立」「合意」明示
2. こういう事例・・・あなたは賛成?反対?(15) (1) 事前アンケート結果の確認 (2) アンケート1:5つの場面で賛否を表明 「『じゃんけん』や『くじ引き』で決めちゃえばいいじゃん」 (3) アンケート結果を踏まえ, 「じゃんけん」や「くじ引き」の利点と欠点を整理 (4) 発表・意見交換しよう ※「効率」と「公正」を視점에概念化	・「じゃんけん」や「くじ引き」は, 良い決め方か? (賛成)40人ほど, (反対)80人ほど ・【事例】町内会ゴミ当番→(賛)100人, (反)20人 【事例】市長/町長→(賛)10人, (反)110人 【事例】まちの将来検討委員→(賛)80人, (反)40人 【事例】国会議員の1割→(賛)10人, (反)110人 【事例】裁判員→(賛)80人, (反)40人 ・「じゃんけん」や「くじ引き」は効率的で公正な決め方かもしれないけど, 状況や能力は無視されるね	・タブレット活用:アンケート ・3分以内に回答指示(終わったら予想させる) ・板書で利点と欠点を整理 ・代表生徒の発表支援 ・板書:「効率」「公正」明示
学習課題: 私たちの未来を「くじ引き」で決める方法は, よい決め方と言えるか?		
<展開1>13:55~14:15 3. 国や自治体の大切な物事の決め方としても, なぜ「くじ引き」が採用されている?(10) (1) 裁判員制度と気候区民会議の概要を確認 (2) 「くじ引き」が採用されている理由を「効率」と「公正」の視点で考察	・衆議院議員選挙の有権者から「くじ引き(無作為抽選)」で裁判員候補者を選出する制度が日本でも2009年にスタートした ・札幌市では2020年と2025年に2050年の都市環境や公共交通のあり方を3・4回, 杉並区では2024年に2050年の都市環境のあり方を6回かけて「くじ引き市民」が議論した ・いずれも「公正」を重視した取り組みだ	・板書:学習課題 ・板書:【資料1・2・3】掲示
4. 釧路市の「ブランド」の決め方としても, 一部「くじ引き」が採用されている!?(10) (1) KUSHIRO BRANDING PROJECTの概要を確認 (2) アンケート2:インタビューしたいことを「効率」と「公正」の視点で構想	・釧路市の「ブランド」を考える市民ワークショップの参加者の一部に「くじ引き市民」が含まれている ・(質問例)くじ引きで選んだ方が多様な年代・性別・地区の市民の意見を聞くことができるから? くじ引き市民以外も意図的に入れたのはなぜ?	・板書:【資料4】掲示 ・タブレット活用:ネット調査 ・まずは個人/ペア/班で概要確認&質問構想 ・タブレット活用:アンケート

凡例: 教室での練習合い場面 他校との交流・発表場面 ゲストとの交流・中継・インタビュー場面 タブレットの活用

6 本時(第2時)

目標: 釧路市のKUSHIRO BRANDING PROJECTの担当者にインタビューし、多様な市民がまちの未来を議論する1つの方法を理解した上で、自分たちのまちや他のまちのブランドを構想しあっている。【思考・判断・表現】

学習活動	予想される生徒の反応(例)	指導上の留意点
<展開2> 14:20~14:55 5. 担当者は、どんなねらいがあったのか?(15) (1) 各学級から1つずつインタビュー (2) 担当者からコメント ①くじ引きを一部採用した仕組みと理由 ②くじ引き以外の市民・団体と混合した理由 ③プロジェクトにかけている思い 6. 自分たちのまち、参加校のまちの特色、どんなキャッチコピーで売り出したら良いか?(20) (1) 個人: 自分のまちのキャッチコピーを構想 (2) 個人: 参加校のまちのキャッチコピーを構想 (3) くじ引きタイム!: 学級代表を2~3名選出 (4) ブレイクアウトルームに分かれて議論 【ルーム1】★春採3-1, 山花, 甲田 【ルーム2】★春採3-2, 洞爺, 手々 (5) 担当者からコメント	・性別、年齢、居住地区の人口配分に応じて「くじ引き(抽選)」で市民2000人の候補を選んだ ・その他にも移住者の目線、地域おこし協力隊の目線も議論に加えて、意図的に選定した ・短期的な視野だけでなく、長期的な視野でプロジェクトを進めていき、10年かけてじっくり釧路市をプロモーションしていきたい ・「〇〇なまち釧路市」「■■なら釧路市」「〇〇なまち洞爺湖町」「■■なら洞爺湖町」「〇〇なまち安芸高田市」「■■なら安芸高田市」「〇〇なまち徳之島町」「■■なら徳之島町」 ・必ずしも「合意」を効率的に目指さない、時間をかけた「公正」な「熟議」の視点	・中継準備: カメラオン(14:15ごろルーム2でリハ) ・【中継】マーケティング戦略室 ・代表生徒の発表支援 ・タブレット活用: 任意アプリ ・キャッチコピーのアイデア ・代表生徒の抽選! ※ネームカード、出席番号のくじ引きなど ・【中継】マーケティング戦略室
<終結> 14:55~15:05 7. 「じゃんけん」や「くじ引き」で決める方法は、よい決め方か?(15) (1) くじ引きタイムのふり返し ※「責任」と「義務」を視点に概念化 (2) アンケート3: 事前アンケートとの比較 (3) 日常生活で意識したいポイントの宣言 ※終了後、時間がある教室では、教科書で「効率」と「公正」の定義を確認したり事後アンケートに回答したりしてください!	・誰が選ばれてもおかしくなかった ・学級代表として発言しないといけない大きな責任を感じた ・「じゃんけん」や「くじ引き」は、良い決め方か?(賛成)60人ほど、(反対)60人ほど ・早速明日から〇〇について意識して(注意して)学校生活を送ってみたい!	・抽選された生徒のうち1名が発表 ・タブレット活用: アンケート ・代表生徒の発表支援 ・まとめを板書する
まとめ: ①学校や地域社会の一員である私たちは、物事の決定に関わっていく「責任」と「義務」がある。 ②「対立」を乗り越え、「合意」を目指していく上では、「効率」と「公正」のバランスが大切だ。 →「じゃんけん」や「くじ引き」で代表を選ぶ仕組みは、いろんな立場の人が対等に参加し、自分事として物事を考えてもらうことを促す「手続きの公正さ」を大切にしている。一方、熟議は、非効率な点で課題が残る。		

7 板書計画(各学級でアレンジしてください)

課題: 私たちの未来を「くじ引き」で決める方法は、よい決め方と言えるか?

Q: どんな物事をどう決めている?

【場面】席替え→【方法】くじ引き+譲り合い
 【場面】給食おかわり→【方法】じゃんけん
 【場面】生徒会長選挙

→【方法】立候補→投票
 【場面】合唱祭曲決め
 →【方法】話し合い+最後は多数決
 【場面】授業中の発言者
 →【方法】先生が指名
 【場面】修学旅行の班での自主研修場所
 →【方法】全会一致

・決め方によっては、争いや不満が起きる
 ・決め方によっては、みんなが納得する

・じゃんけんやくじ引きは、**効率**的で
公正な決め方かもしれないけど、
 状況や能力は無視される

資料1
裁判員制度

資料2
通知書

資料3
気候市民会議

資料4
釧路市の事例

国や自治体の
大切な物事を決める
仕組みにもくじ引きは
用いられている

私たちのまちのキャッチフレーズ

「〇〇なまち釧路市」「■■なら釧路市」
 「〇〇なまち洞爺湖町」「■■なら洞爺湖町」
 「〇〇なまち安芸高田市」「■■なら安芸高田市」
 「〇〇なまち徳之島町」「■■なら徳之島町」

まとめ: ①学校や地域社会の一員である私たちは、物事の決定に関わっていく責任と義務がある。
②対立を乗り越え、合意を目指していく上では、効率と公正のバランスが大切。
→じゃんけんやくじ引きで代表を選ぶ仕組みは、①・②を踏まえた物事の決め方の1つ。
手続きの公正さ(多様な人の参加)が高い一方、熟議を大切にするため非効率

8 事後学習の例

- 釧路市内の春採中&山花中: 【ミニパブリックスにおけるレファレンダム】KUSHIRO BRANDING PROJECTで実際に制作されたロゴやキャッチコピー案への「市民意見アンケート(7~8月を予定)」にクラスや個人のアイデアを投稿する。
- その他の中学校: 【単元「地方自治」との連続性】自分たちの地域・自治体でも「くじ引き(抽選)」を採用した市民ワークショップや市民アンケートが実施されていないか調べてみる。本時のような自治体の未来を構想する取り組みを、10月ごろに予定されている単元「地方自治」とつなげて、日本国憲法92条の「地方自治の本旨」(団体自治・住民自治)の概念と結びつける。